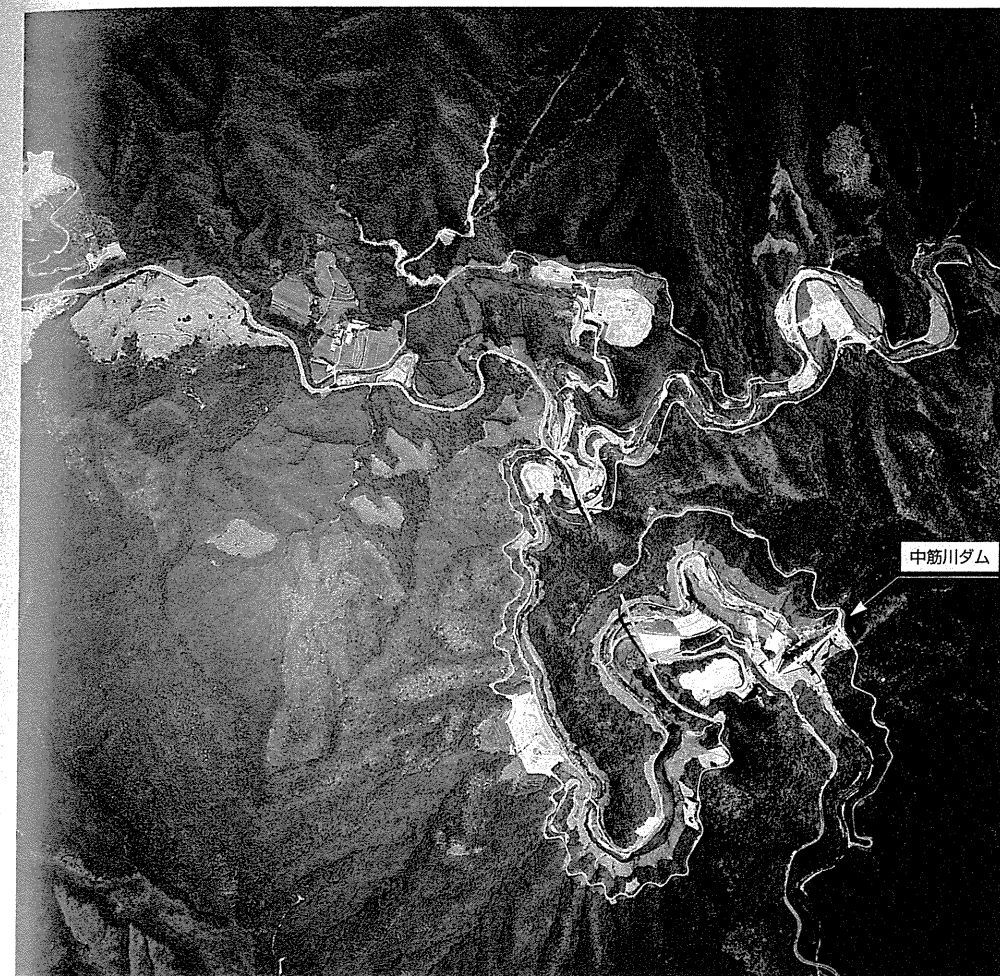
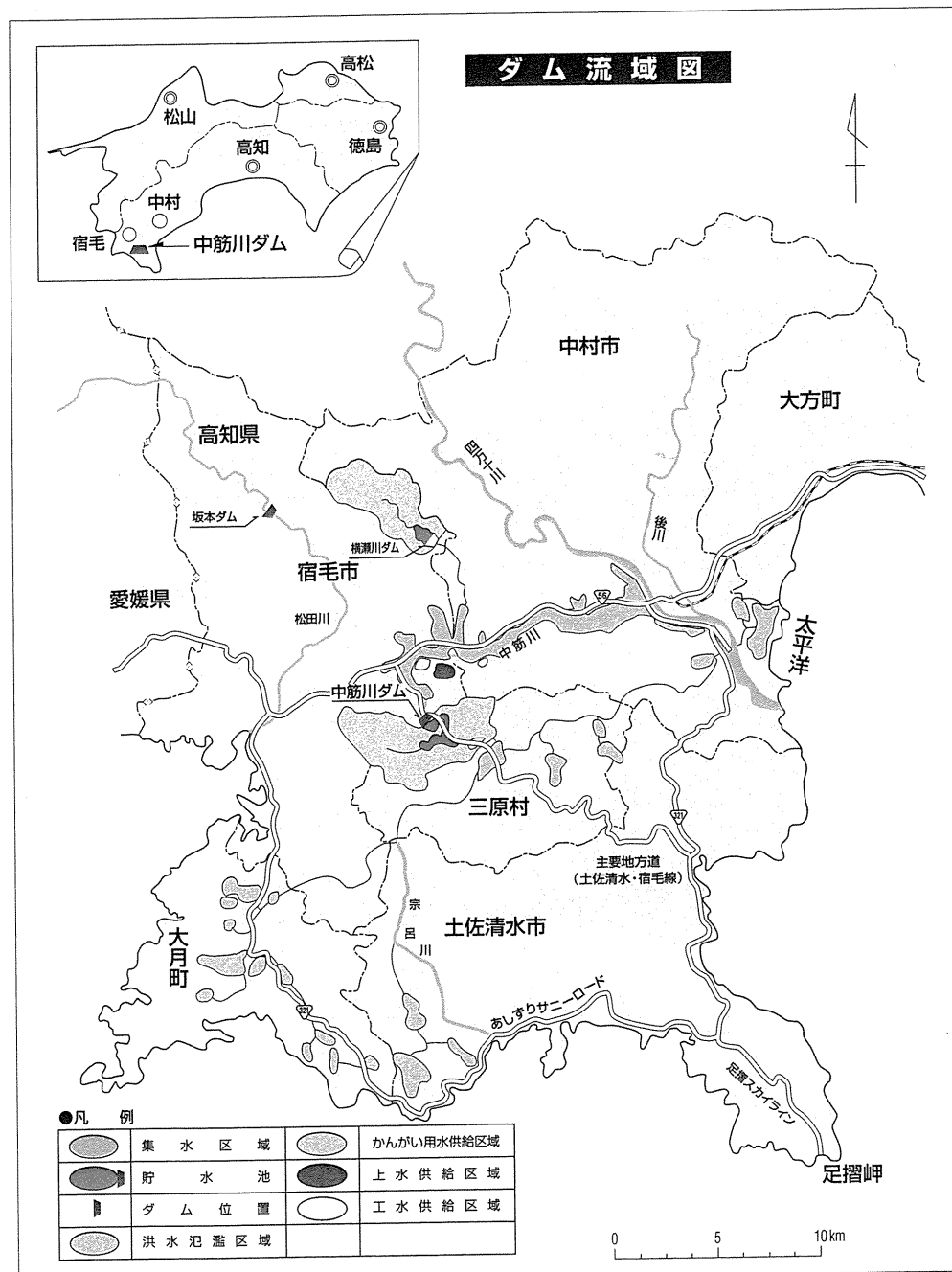


1 流域概要



工事中の中筋川ダム・貯水池全景

■流域概要

中筋川は四国の南西部に位置し一級河川四万十川の一次支川で、その源を高知県宿毛市の白皇山(標高457.8m)に発し、宿毛市を経て中村市実崎地先で本川に合流する流域面積144.5km²、流路延長36.4kmの河川です。

2 計画概要



■ダムおよび貯水池 諸元

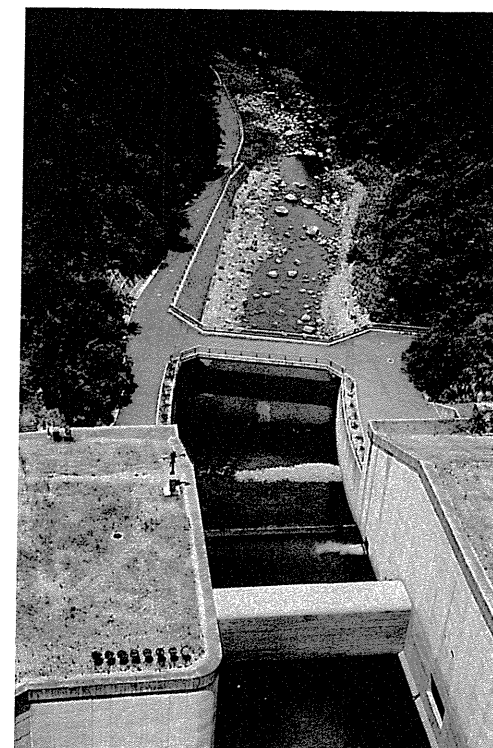
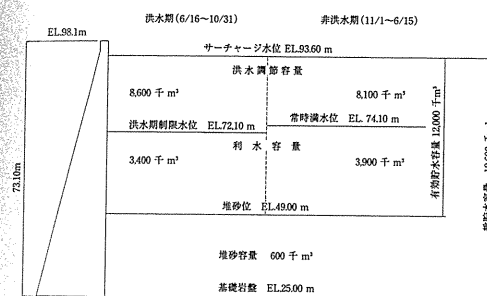
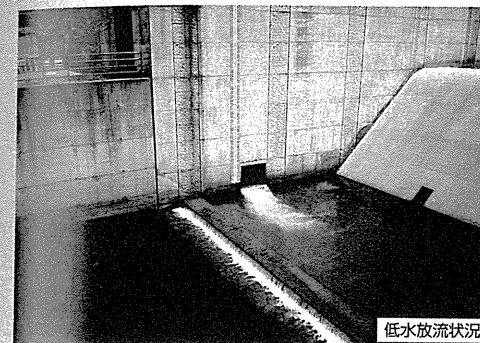
ダ ム	
位 置	高知県宿毛市平田町黒川
河 川 名	渡川水系中筋川
型 式	重力式コンクリートダム
堤 高	73.1m
堤 頂 長	217.5m
堤 体 積	274,000m³
堤 頂 標 高	越流部 EL.93.60m 非越流部 EL.98.10m
貯 水 池	
集 水 面 積	21.10km²
湛 水 面 積	0.70km²
総 貯 水 容 量	12,600,000m³
有 効 貯 水 容 量	12,000,000m³
設 計 洪 水 位	EL.96.10m
サーチャージ水位	EL.93.60m
常 時 満 水 位	EL.74.10m
洪水期制限水位	EL.72.10m
堆 砂 位	EL.49.00m

放 流 設 備

常用洪水吐	型 式	一面ベルマウス形オリフィス
	形 状	下段 高1.25m×幅2.00m 敷高EL.72.10m 上段 高1.25m×幅2.00m 敷高EL.74.10m
非常用洪水吐	放 流 能 力	下段 40m³/s 上段 38m³/s
	形 式	全面越流
主放流	形 状	高2.50m×幅13.50m×10
	放 流 能 力	Q=1,080 m³/s
副放流	形 式	選択取水方式（多段式シリンドラゲート）
	放 流 管	φ1400
低水放流設備	ゲート	ジェットフローゲート φ800
	放流能力	8.0 m³/s
副放流	形 式	鋼製円形管
	放 流 管	φ800
水没補償	ゲート	ジェットフローゲート φ500
	放流能力	2.0 m³/s

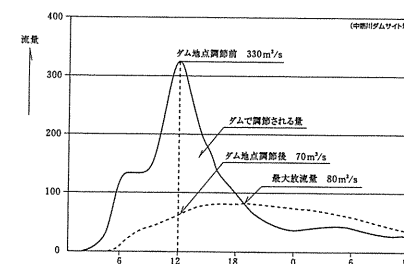
水 没 補 償

移 転 家 屋	27戸
宅 地	87 a
田 畑	74.2a
山 林	6,440 a
道 路 付 替	12,802 m

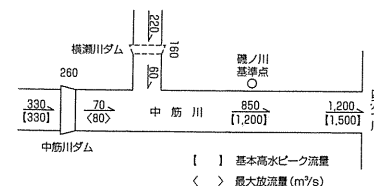


低水放流時の下流河道状況

■洪水調節図



■流量配分図

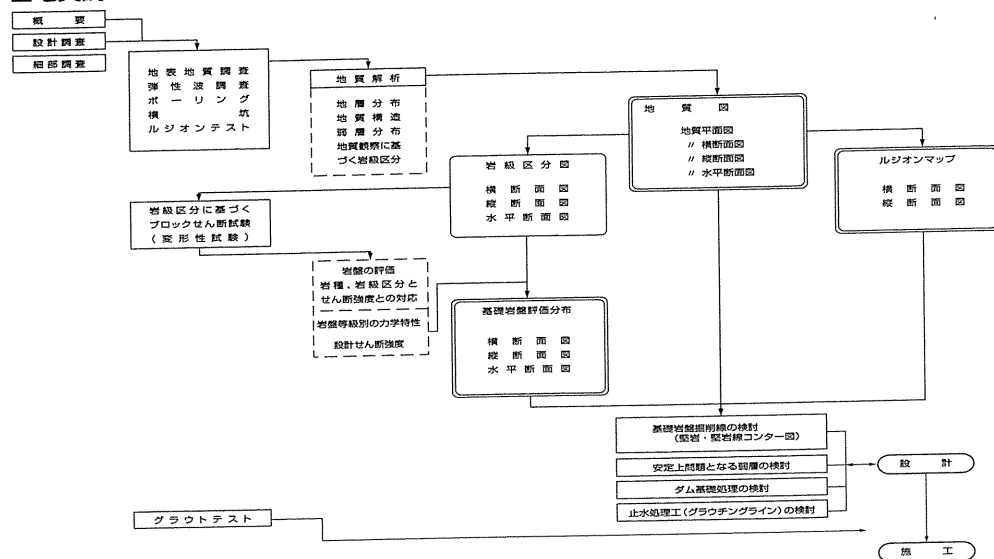


■事業目的

- 洪水調節
ダム地点の計画高水流量330m³/sのうち260m³/sを調節し、中筋川沿川地域の洪水被害を軽減します。
- 流水の正常な機能の維持
河川の生態保護のため必要な河川の流量を維持すると共に、中筋川流域での既得用水の補給を図ります。
- かんがい用水
高知西南地区の約530haの農地に対し、日最大約20千m³ (0.237m³/s)、年間最大約1,900千m³のかんがい用水の補給を行います。
- 水道用水
宿毛市に、2,000m³/日 (0.023m³/s) の水道用水の取水を可能にします。
- 工業用水
高知県 (高知西南中核工業団地および上の土居工業団地) に8,000m³/日 (0.093m³/s) の工業用水の取水を可能にします。

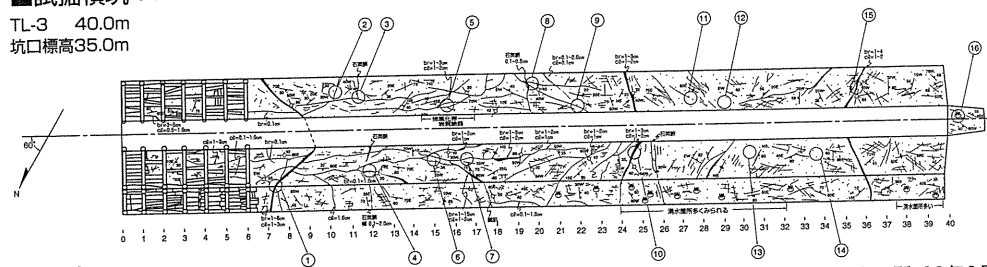
3 調査・設計

■地質調査：ダム建設の初期段階から、ダムサイトはもちろん、貯水池周辺にわたってさまざまな地質調査を実施しています。

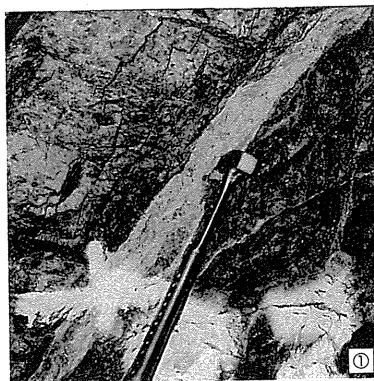


■試掘横坑：ダム基礎岩盤の状況を、実際に目でみて確認するため、ダム堤敷に6本の調査横坑を掘って調査を行っています。

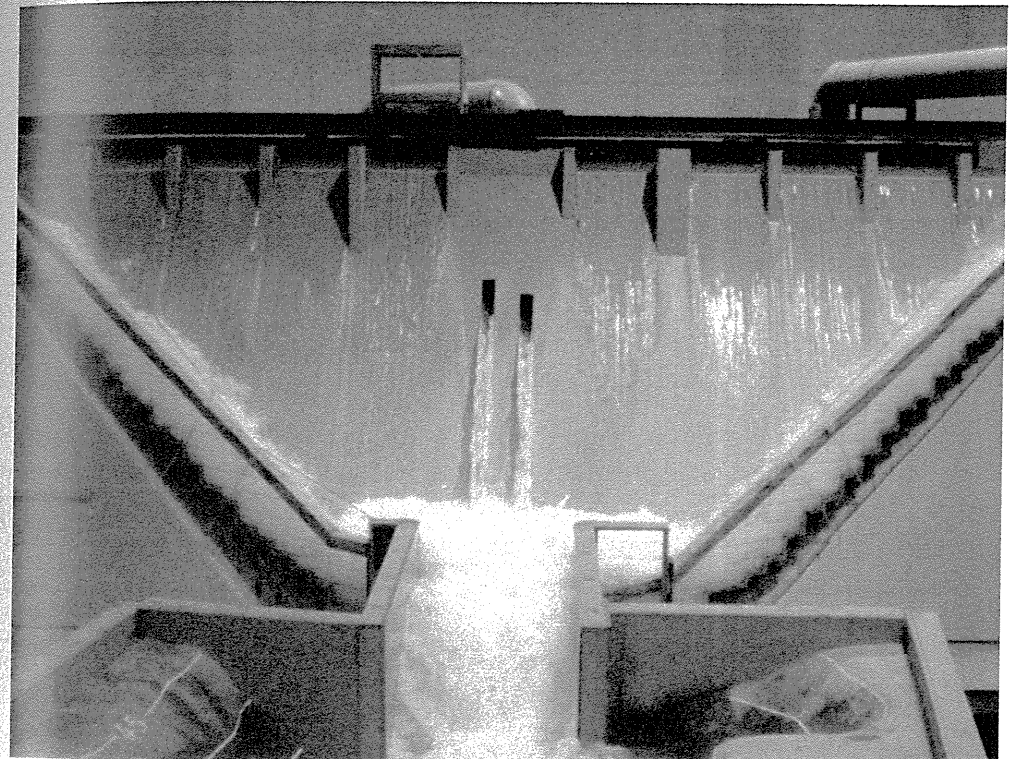
TL-3 40.0m
坑口標高35.0m



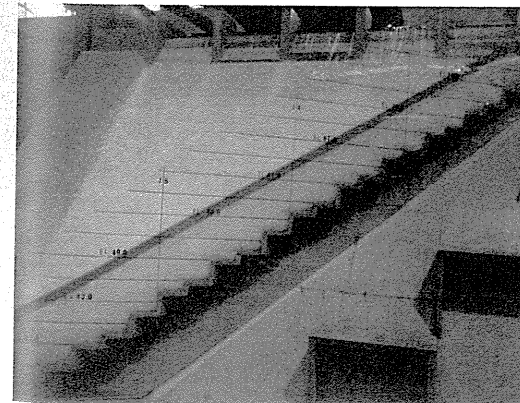
(地質調査報告書 昭和60年9月)



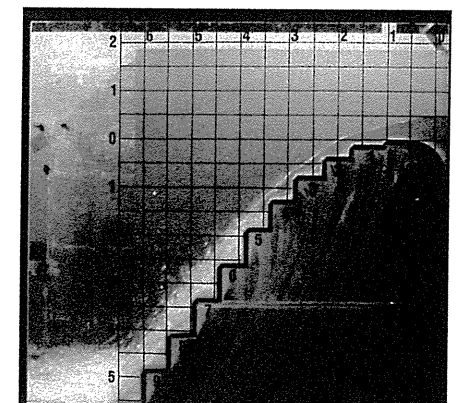
■水理模型実験：洪水の対応は、ダム完成後でなければなりません。したがって、設計に沿ったダムの水理的機能を水理模型実験によってチェックし、各所の改良がなされています。また、この実験によって想定している大規模な洪水について疑似体験できます。



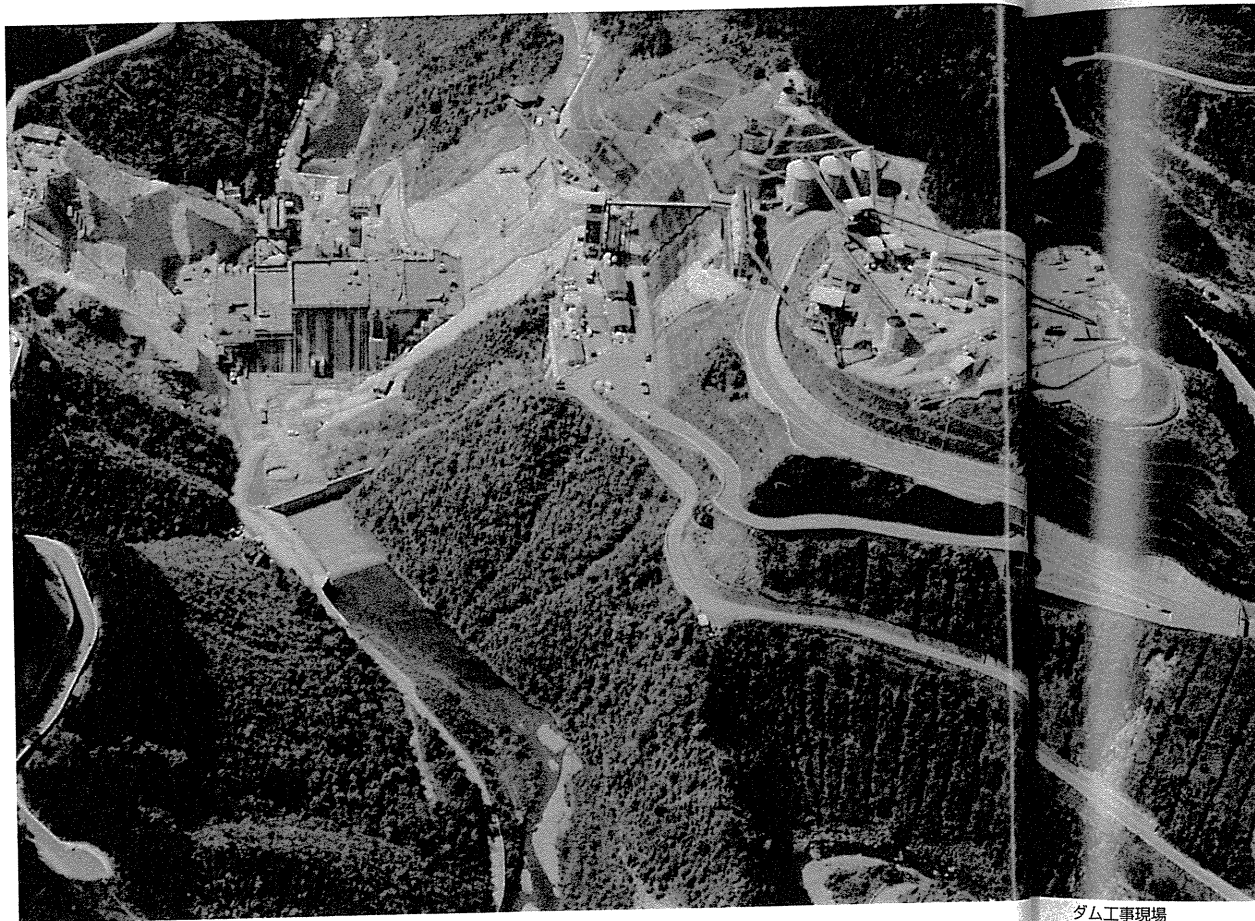
全体模型 (S=1/31.25) での1,160m³/s流下状況



堤趾部導流部抽出模型 (S=1/20)



越流部階段形状の検討模型 (S=1/10)



ダム工事現場

左手がダム本体で右手
台地にダム施工設備を設
置している。

■ダムのおいたち

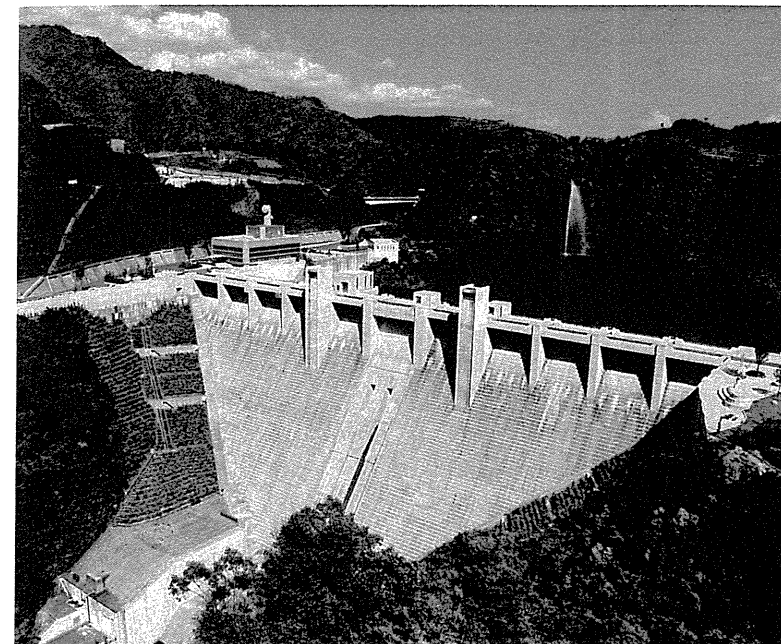
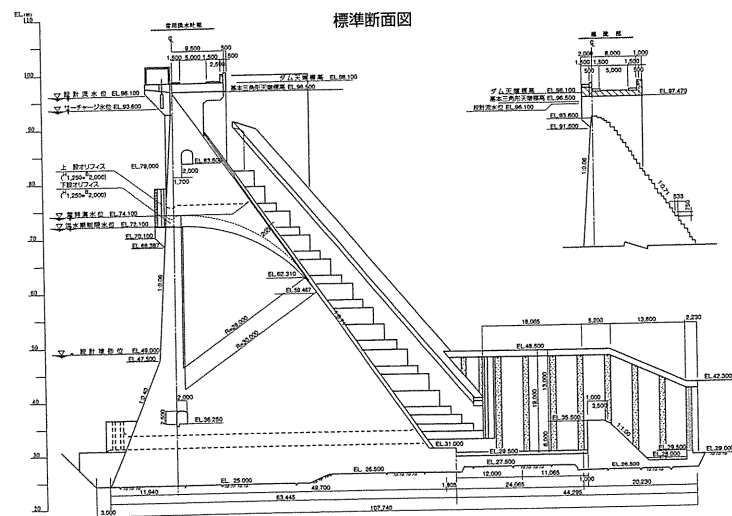
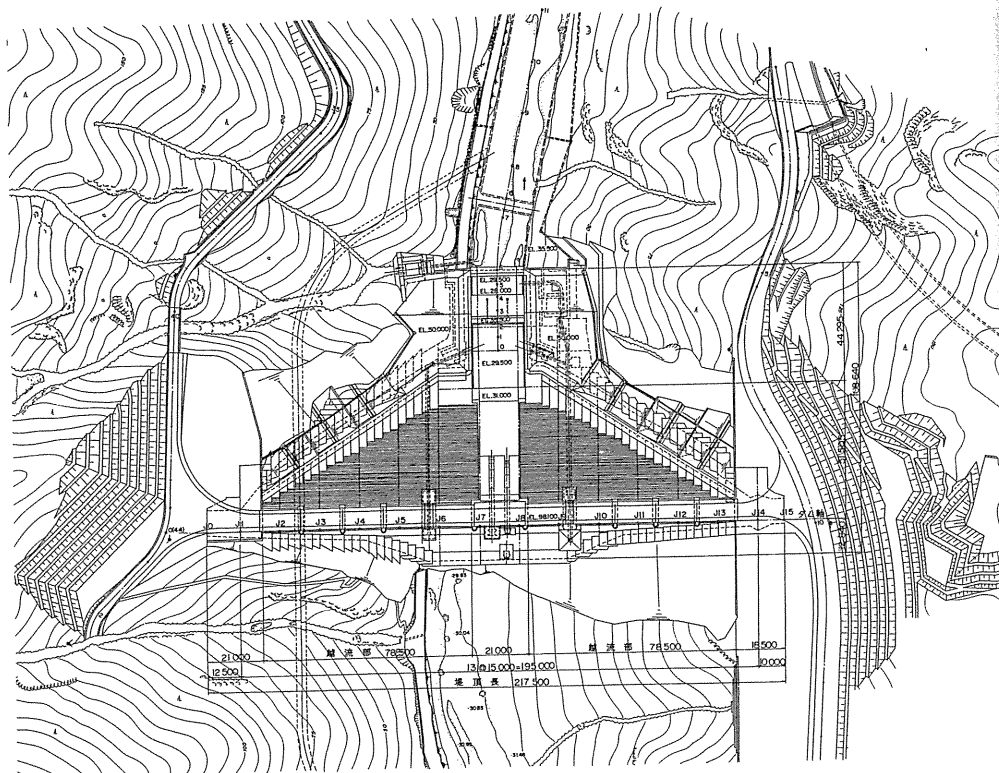
中筋川流域は、全域が台風常襲地帯であり、中下流部の河床勾配が緩やかなこともあって、四万十川本川の背水の影響を受けやすく、四国の河川の中でも洪水の発生が顕著な河川となっています。このため、昭和4年より直轄改修工事に着手し、合流点付替、堤防の新設等の工事をし、洪水被害の減少に努めてきました。しかし、その後も中筋川流域の洪水被害は後を絶たず、破堤、堤防越水をくり返し、沿川の社会・経済活動に重大な影響をもたらした。中筋川ダムを始めとする治水計画の早期実現が強く望まれていました。

また、中筋川は宿毛・中村両市の灌漑用水等の水源として古くから広く利用されてきましたが、下流沿川においてしばしば深刻な水不足に見舞われており、安定供給をする必要に迫られています。さらに、中筋川周辺地域では、高知県西南地域の発展を図るため、高知西南中核工業団地、高知西南地区国営総合農地開発などの事業が進められ、これらの新たな水源の確保も必要となりました。

中筋川ダムは、こうした広範な地域の要請を受けて昭和57年度から実施計画調査に入り、翌昭和58年度から建設に着手、平成元年からは本体工事が行われ、平成5年度には本体コンクリート打設が完了。平成7年11月より試験湛水を開始し、平成10年5月に試験湛水を終了し、平成10年8月に竣工しました。

■事業経過

1972年（昭和47）	4 / 1	●予備調査に着手
1982年（昭和57）	4 / 1	●中筋川ダム対策協議会発足
1982年（昭和57）	4 / 6	●中筋川ダム直轄管理区間公示（本川）
1982年（昭和57）	4 / 8	●中筋川ダム調査事務所設置
1982年（昭和57）	6 / 4	●清水川地区中筋川ダム対策協議会発足
1982年（昭和57）	12 / 21	●中筋川ダム対策協議会と基本協定の締結
1983年（昭和58）	1 / 30	●黒川地区中筋川ダム対策協議会発足
1983年（昭和58）	4 / 1	●黒川地区中筋川ダム対策協議会と基本協定の締結
1983年（昭和58）	4 / 5	●中筋川ダム直轄管理区間公示（清水川）
1983年（昭和58）	4 / 7	●中筋川ダム工事事務所と名称変更
1983年（昭和58）	6 / 24	●用地測量及び物件調査に関する覚書締結 （黒川地区中筋川ダム対策協議会）
1984年（昭和59）	3 / 11	●用地測量及び物件調査に関する覚書締結 （清水川地区中筋川ダム対策協議会）
1984年（昭和59）	3 / 16	●基本計画告示
1985年（昭和60）	3 / 11	●用地測量及び物件調査に関する覚書締結 （清水川地区中筋川ダム対策協議会）
1986年（昭和61）	9 / 17	●補償基準締結 ・中筋川ダム対策協議会 ・黒川地区中筋川ダム対策協議会
1986年（昭和61）	11 / 28	●補償基準締結 ・清水川地区中筋川ダム対策協議会
1987年（昭和62）	9 / 17	●主要地方道土佐清水宿毛線付替工事完成
1987年（昭和62）	12 / 7	●少数残存補償契約完了
1988年（昭和63）	2 / 9	●座取り基本設計会議開催
1988年（昭和63）	4 / 26	●漁業補償覚書締結
1988年（昭和63）	9 / 27	●漁業補償契約調印
1988年（昭和63）	12 / 3	●仮排水トンネル工事着手
1989年（平成元）	5 / 9	●本体発注基本設計会議開催
1989年（平成元）	9 / 20	●本体工事着手
1989年（平成元）	12 / 22	●転流開始
1990年（平成2）	1 / 26	●本体起工式（本体掘削開始）
1990年（平成2）	6 / 11	●中筋川総合開発工事事務所と名称変更
1991年（平成3）	1 / 30	●本体コンクリート打設開始
1991年（平成3）	5 / 21	●中筋川ダム定礎式
1993年（平成5）	11 / 15	●本体コンクリート打設完了
1994年（平成6）	3 / 4	●中筋川ダム管理庁舎起工式
1994年（平成6）	3 / 30	●地域に開かれたダムの指定について申請
1994年（平成6）	4 / 21	●地域に開かれたダムとして指定される
1994年（平成6）	11 / 2	●2次転流開始
1995年（平成7）	2 / 13	●地域に開かれたダム整備計画の認定
1995年（平成7）	3 / 20	●中筋川ダム管理庁舎竣工
1995年（平成7）	11 / 1	●試験湛水開始
1995年（平成7）	11 / 7	●中筋川ダムの未来を考える会発足
1996年（平成8）	7 / 28	●第1回ダム湖（蛭湖）祭開催 （ダム湖名を蛭湖と命名）
1998年（平成10）	5 / 17	●試験湛水終了
1998年（平成10）	8 / 23	●中筋川ダム竣工式
1999年（平成11）	4 / 1	●ダム管理開始予定



左岸下流側よりダムサイトを望む

